



土橋の子

平成 26 年度 1 月号
第 1 2 2 3 号
日置市立土橋小学校
平成 27 年 1 月 23 日 発行

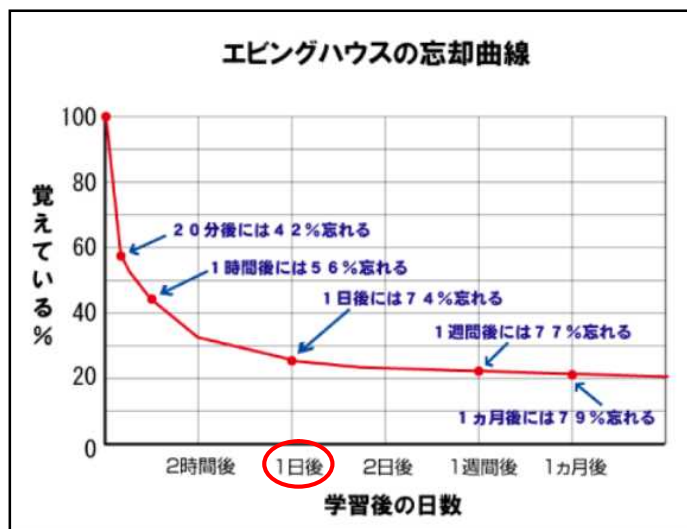
二人して 荷解き終へた新居には 同じ二冊が並ぶ本棚

【茨城県：五十嵐裕治さん（57 歳）】

新春恒例の「歌会始」が 14 日、皇居で行われました。お題は「本」。寄せられた 2 万首以上の短歌の中から入選した 10 作品のうちの一つが標題の作品です。五十嵐さんは、本を整理して思い出した新婚当時の奥様との間での小さな幸せを感じた出来事を歌にしたそうです。

「はじめは新鮮な感動があったんだな、何事も…」とは、「ドラえもん」に登場するのび太君の言葉です。五十嵐さんが歌った、結婚したときの感動はもとより、子が生まれて親となったときの感動、その子がハイハイをしたり歩いたりしたときの感動、幼稚園入園や小学校入学等で抱く感慨など、人はそうした感動・感慨をいつの間にか忘れてしまいがちです。私どもで言えば、教職に就き、初めて子ども達の前に立ったときの感動と情熱、職責感。「初心忘れるべからず」、ニュースで五十嵐さんの歌を聞きながら考えることでした。

そもそも、人間は基本的に忘れる動物です。学習の手引き「土橋ガイドダンスブック」（5 年生以上に配布済み、P 3）に、人間の脳の「忘れる」状況をグラフで表した忘却曲線が掲載されています。それによると、人は情報を覚えてから 20 分後には 42%、1 時間後には 56%、1 日後には 74% を忘れるのだそうです。復習しなければ、1 日の間に急激な忘却が起こることが分かります。また、1 日後の 74% 忘却と 1 か月後の 79% 忘却では、さほど変わらないように思えますが、実は記憶の鮮明さで違いが出ています。早く復習すると、記憶が鮮明のため、忘れていても短



時間でよみがえります（再認可能忘却）。それに比べ、1 週間以上経過後に復習しても、所々を完全に忘れてしまって、初めて記憶した時と同じ時間が必要となります（完全忘却）。ですから、1 日後の 74% 忘却と 1 か月後の 79% 忘却では、復習するのに必要な時間が異なり、1 か月後では、始めから覚え直さないとならない状態になってしまいます。簡単に記憶がよみがえるうちに、早めに復習することが効率的な定着につながるわけです。

さて、「学習のことは、学校にお任せください」と言いたいところですが、残念ながら、授業だけでは学習内容は定着しません。授業では、その内容を子ども達はほぼ理解しますが、それが定着するかどうかは、以降の家庭学習の在り方で決まります（勿論、下学年時の積上げがなければ、理解が難しい内容も多々あります）。授業で分かっても、既述のとおり、帰ってから復習もせず、ゲームをしたり TV を見たりばかりでは、学習内容の定着は望めません。



家庭学習の習慣化は、学年が上がるに連れて困難になります。家庭学習が習慣化していない子どもの多くは、一定時間続ける根気がひどく弱く、姿勢を崩さずに学習する静筋が未発達です。ですから、少し時間が経つと、机に突っ伏すようにしてだら一とした姿勢になるはず。こうした子どもは、赤ちゃんがハイハイからつかまり立ちをしかけた頃と同じく、一人ですたすと歩く力はまだまだできていない状態なのです。だからこそ、保護者が手を差し延べたり、支えたりしなければなりません。本人任せでは、いつまで経っても習慣化しませんし、仮にある程度成長してから習慣化しても、基礎的な内容や計算処理、あるいは文字を書くスピードなどが身に付かないまま進級・進学しているので、既に遅いのです。基礎がしっかりしていない土台に高い建物は建てられないのと同じです。

まだ習慣化していない場合、まずは毎日一定時間、決まった時刻に「机に向かう時間」を設けることが大切です。その際、「宿題をきなさい」と口で言うだけでは、決してうまくいきません。「つかまり立ち」の段階の子に、「歩けるでしょ！ほら、さっさと自分で歩きなさい！」と言うようなものです。「自分（保護者）が然るべきときに然るべき習慣を付けて上げなかったから、この子はできないのだ」と考えるべきです。始めはリビングの円卓でもいいので、横に一緒に座り、最初の 5 分だけでも学習の取り掛かりに付き合ってください。習慣付いていない子は、「一人でやれ」と言われてもやる気は起きません。まだ自立しておらず、保護者に抱擁して欲しいのです。一体感を求めているのです。横に座って優しく包んでもらえたら、やらない子はほぼいませません。しばらく続け、ささやかでも望ましい変容を見逃さずに褒めながら、あるいは家族で認めながら、「できるぞ、自分！」という自信や意欲をもたせるようにしていきます。2 か月も経つと、1 時間を越えても苦もなくやれるようになりますが、しっかり定着するまで、保護者は最低 3 か月、我慢強く支えて上げなければなりません（なぜ 3 か月かは脳生理学の上から説明できるのですが、紙幅の都合上、ここでは割愛します。勿論、子どもの学習意欲が出てくれば、そこまで日数は要しません。）。

一人立ちして学習できるようにしつけるには、保護者の相応の根気が求められます。子どもが家庭学習をしないのは、その子の責任ではありません。保護者の根気強さが、保護者の姿勢が、ことの成否を決めます。“親”となったときの「初心忘れるべからず」です。

「私は思う。今が大事なときだ。もう一歩。」
(武者小路実篤)



日	曜	行 事 等	日	曜	行 事 等
2	月	貯金日	11	水	建国記念の日
3	火	学校安全の日 国際交流会（2・3校時）	13	金	南九州美術展鑑賞会、巡回図書 クラブ活動
5	木	校内なわとび大会（3・4校時） 【家庭学習強調週間（～12日）】	19	木	学習発表会
6	金	A L T 来校（1～4年）	20	金	食育の日
10	火	新1年生保護者入学説明会	23	月	3年生委員会体験月間（～3/20）
			27	金	学級PTA、巡回図書

※ きちんとヘルメットを着ける、二人乗りはしないなど、自転車に乗る際の交通ルールをご家庭でもご指導ください。